

薬局薬剤師のトレーシングレポートが薬物治療に及ぼす影響

飯田 眞唯¹⁾、三浦 理沙²⁾、鈴木 友洋¹⁾、小林 木綿子²⁾、畔柳 裕一³⁾、石黒 貴子⁴⁾、前田 守⁵⁾、長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 両国店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 東中野店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 西新宿店
- 4) 株式会社アインファーマシーズ
- 5) 株式会社アインホールディングス

【目的】2015年10月に厚生労働省が策定した「患者のための薬局ビジョン」では、保険薬局に「かかりつけ薬局・薬剤師」「健康サポート」「高度薬学管理」の機能の発揮が求められており、トレーシングレポート(以下、TR)などによる医療機関との連携が重要となる。本研究では、TRの運用状況を調査し、患者の薬物治療に及ぼす影響を評価した。

【方法】2018年7、8月に当社が東海、関東甲信越地域1都4県で運営する保険薬局から50店舗を無作為に抽出し、社内イントラネットを用いてTRに関するアンケートを実施した。主な項目は「提出意図」「処方変更の有無」「提出後の患者状況」とした。「提出意図」の内訳は、「副作用」「服薬状況」「残薬報告」「体調・症状」「減薬提案」「薬剤安定性」「検査提案」「生活習慣」とした。結果は「処方変更の有無」から「変更あり群」と「変更なし群」に分け、有意水準0.05としたカイニ乗検定にて統計解析した。

【結果】報告されたTRは222件であり、変更あり群が116件(52.3%)、変更なし群が106件(47.7%)であった。「提出意図」は「副作用」と「服薬状況」が23.0%と最も多く、次いで「残薬報告(21.2%)」であった。TRによる処方変更率は47.7%であり、「減薬提案(83.3%)」や「残薬報告(83.0%)」では高く、「体調・症状(38.7%)」や「副作用(19.6%)」では低かった。TR提出後に患者状況が改善・安定した症例は、変更あり群(34.5%)の方が変更なし群(10.4%)よりも有意に多かった。

【考察】本結果より、「減薬提案」や「残薬報告」といった薬学管理によるTRの処方変更率は約8割と高く、薬物治療の専門家としての情報共有が医療機関で重視されている可能性が示唆された。TRにより患者状況が好転した症例は、変更あり群のほうが変更なし群より約3.3倍多く、TRが患者の安全かつ効果的な薬物治療の実現に貢献していることが示唆された。今後もTRを運用し、医療機関との連携強化に努めたい。

(第13回日本薬局学会(2019年10月,神戸)にて発表)